

八上校区まちづくり協議会広報誌

やかみ高城

第二十二号

発行日：平成28年3月20日
発行者：八上校区まちづくり協議会
人口：2,217名（882世帯）
男1,072名 女1,145名
（平成28年2月末現在）

平成28年度八上校区

人権・同和教育研究大会

「誰もが幸せに暮らせる
地域づくり」

企画部副部長 坂本 信博

1月24日、高城会館に於いて八上校区人権・同和教育研究大会（人権啓発劇と講演）が開催されました。

人権啓発劇「五人の迷える男たち」人権学習を分かりやすく芝居で表現されている乾劇団（乾新町自治会）により、演じられました。

話は、ある町で起きた市民ホールプロのデザイナーの作品が、知的障害者Y君の作品を選ぶかについて、綴帳選考委員会が開かれました。

委員会は、全員一致を条件として、討議する中で、障害者に対する差別性があらわになり、自らの差別性に気づき、最後にY君に決まります。

委員会は、「様々な差別や偏見や間違った考え方は、みんなが心のどこかに少なからずもっています。これら無くして明るい社会を作っていきましょう。」と締めくくりました。

講演「高齢社会に生きる」

講師に大芋活性化委員会事務局長の江坂道雄氏を迎え、大芋校区の高齢社会の現状と取組みについて講演をいただきました。

平成17年2月、(1)若者人口の流出や少子化：大芋小学校が廃校になるのではないかとという危機感。(2)高齢化（40%近く）：コミュニケーションの低下に対する危機感。(3)主要な施設がなくなることに對する危機感。が大芋活性化委員会



を立ち上げました。そして、平成19年、大芋地区アクションプラン（目標策定）が以下にまとめられました。

目標1ひとり暮らし高齢者の見守り・支え合いが出来る地域づくり。
目標2交通手段・店舗が少ないなか、動ける人が互いに助け合える体制作り。

目標3子供から高齢者まで誰もが楽しく集える機会作り。
主な活動として、「地域福祉を考える集い」「大芋サロン」「生きがいデイサービス&歌ごえサロン」「福祉会議」「移送サービス」「文化祭」「大芋まつり」、ユニークな過疎化対策として「ひなまつりに楽農かまど&10連水車&かかし」などです。

成果として、新しい風が吹き、地域に元気が出てきた。委員会の活動で喜ぶ人が現れた。課題として住民への情報伝達が不十分ではないか。人材の育成ができていないのではないかとまとめられました。

地域のなかに豊かな「つながり」を育て、地域のすべての人が、様々な違いや価値観を認め合い、広く人権が尊重された地域づくりをめざしたいと思われました。

福祉講座

福祉部副部長 段畑 眞奈美

2月14日に、福祉講座を開催しました。参加者は38名でした。篠山市社会福祉協議会事務局長の前田公幸さんを招き、「住み慣れた地域で自分らしく暮らす」「支え合う」ということは」と題して講演いただきました。

福祉とは？ ③つうに④らせる⑤あわせ。あいだみつおさんの詩「しあわせはいつもじぶんのころがきめる」を引用して、福祉とは、与えられるものでなく、自律すること、支援することが大事で、その人らしい人生に寄り添うことと話されました。



篠山市の少子高齢化は、全国の15年先を行っているとのこと、現在、要介護認定率は65才で18.3%ですが、75才では30.3%です。2040年には医療・介護が必要な75才以上の高齢者が増加し、4人に1人が要介護状態になる可能性があるそうです。また、認知症高齢者の行方不明の届け出は、1位が大阪、2位に兵庫だそうで、篠山市でも、1昨年は保護18人、行方不明4人、昨年は保護11人です。（篠山警察署からの情報）

高齢社会をどう乗り越えるか？介護予防や地域での見守り、支え合いが大切なことがわかってきます。もし1人暮らしや認知症になっても、助け合いができる「向こう三軒両隣り」の地域づくりをめざしましょう。

篠山市消防団第7分団

分団長 小島 敦史

八上の皆様には、日頃より消防団活動に對しまして、ご理解ご協力を賜りありがとうございます。また、活動中の私達を見かけると「ごころさん」と、暖かいお声を掛けてくださりお礼申し上げます。

篠山市消防団は、21の分団で構成されており、八上地区は「第7分団」として現在44名（定数45名）が活動しています。

消防団員は、それぞれが生業を持ちながら、有事の際には地域の安全のため、ボランティア精神により防災活動などに従事しています。主として、火災発生時の消火活動、及び自然災害における災害の防除や被害を軽減することなどが重要な活動です。年間を通して、ポンプなどの月例機関点検や地区内の消火栓用具等の定期点検、火災を想定した訓練や研修会も実施し、有事の際に備えています。その他、防火広報活動、水防や年末の警戒巡回。地域の防災訓練や祭りなどのイベントにも参加しています。また、2年に1度行われる「操法大会」では、出場選手と共に消火活動の正確な基本操作を身に付けるため、約2ヶ月半は週2回程度の訓練を行っています。

最近、テレビ等で目にする自然災害や原子力発電所の事故を想定した対応など、災害は「いつどこで起きても不思議ではない」と感じます。地域における消防団の役割も重要性が増しています。

自主防災の意識を高め、早め早めの行動を起こすことが不可欠と考えます。

「消防団」とは、どのように思われているのでしょうか？ 時間と場所を選ばない災害に對し活動する我々の役割は、楽なはずはありません。それぞれが時間をやり繰りし、時には家族に負担を掛けることもありますが、引き受けた役目（責任）を果たしています。現在、第7分団の団員は「40歳以上、約75% 平均年齢

は約43歳」であり、1名の欠員となっており入団希望者を探してみても、なかなか見つからない状態に、次年度は2名の欠員となる見込みです。「数年後は、どうなるのだろうか？」不安が募ります。時の流れと共に年齢層も変動する中、地域防災のあり方についても、見直さなければならぬ時期にきているのではないのでしょうか？

それぞれの地区に消防団員が居ることは、有事の際に災害現場や周囲の状況を把握することができ、速やかな活動につながります。「消防団は大変なことばかり」と思われたかも知れませんが、得るものも少なくありません。少しでも消防団を気に掛けてくださり、そのことから入団希望者が現れれば幸いです。

八上の皆様が災害のない日々を過ごせますようお願いしつつ、地域に密着した消防団活動に努めてまいります。

殿町しあわせ

ルンルンサロン

サロン実行委員 井関弘子

殿町の65才以上の方を対象に、平成22年3月、当時の自治会・福祉委員・民生委員・愛育班の皆さんでしあわせルンルンサロンを開設し、現在5年になります。

高齢化社会に皆様がふれあいの中で楽しく元気に暮らしていけるようにお役に立てたらと年間6回程度開催しています。会の初めにいきいきデカポ体操で体をほぐします。次はみんなでお歌をうたいます。童謡・流行歌等々3曲か4曲合唱します。みんな大きな声を出して楽しんでます。

次はゲーム百人一首・ぼうずめくり・トランプ・輪投げ・折紙・あやとり・ババぬき等々、又健康に関するお話を聞く・和太鼓・手品・日本舞踊・洋舞等の観賞を楽しみます。ぼうずめくり・ババぬきは童心に返ってワァーワァーと大盛り上がり、輪投げや百人一首はみんな真剣です。中々家庭では出来ない事を盛りだく

第7分団（各部、定数15名）
・第1部（池上、港、糯ヶ坪、糯ヶ坪北）
・第2部（小多田一・二・三区、殿町、西八上）
・第3部（京町、京町南、渋谷、八上下、八上内）



操法大会

消防訓練



折紙

いも煮会